

地域医療研修 研修レポート

名古屋第一赤十字病院

一か月間、新城市民病院総合診療科で地域研修をさせていただきました。

市民病院に来てすぐに、研修1年目で研修にきたのは私が初めてであることを知りました。それを聞いたときはとてもアンラッキーだ、2年目の先生方がやってこられたことは私にはできない…と思いました。これまで、外来は緊急性の有無の判断が中心の救急外来と、各科に振り分けることが中心の総合診療科でのわずかな経験しかなく、入院管理に関しては傍観者のような立場で行うことがほとんどであり、自分主体での病棟業務はほぼ未経験でした。

新城に来て早々、長い1か月、早く終わってほしいと思いました。結論から言うと、本当にあっ！という間の1か月でした。

これまでわからないことをわからないまま過ごしてきたことも手伝って、わからないことだらけの私は「旅の恥は掻き捨て」の精神で1か月を過ごすことにしました。そんな私にとって新城市民病院は最高の研修病院だったと今振り返って改めて感じます。

総合診療科の先生方は指導熱心な方ばかりで、疾患のことはもちろん、調べてもわからないようなアドバイス、わからないことの検索ツールに至るまで根本から教えていただきました。初診外来、再診、入院管理と任せていただけることも多く大変勉強になりました。わからないことがあまりにも多く、いちいち時間がかかってしまいましたが、丁寧に教えてくださったおかげで得たものはかなり大きいと思います。また診療にEBMを取り入れている方法を経験できたことは大変参考になりました。常に最高の医療を提供するための基本だとはわかっているものを見て見ぬふりをしてきた、わからないままにしないという姿勢、常に勉強する姿勢を身につける良い機会を与えていただいたと思います。

看護師さんをはじめ、コメディカルの方々にもたくさん助けていただきました。一日の様子、リハビリ、嚥下訓練、薬剤のことなど、担当患者さんの状態でも自分ではよくわからない範囲のことは全部聞いてみようと思われ、あらゆる職種の方にお世話になりましたが、いやな顔一つせず丁寧に教えてくださいました。それぞれの専門分野のスタッフにも声をかけやすい雰囲気は本当にありがたかったです。

病棟内の業務にとどまらず、助産所、作手診療所、豊根村診療所、診療所からの往診、訪問看護、訪問リハビリ、介護老人保健施設といろいろなサービス、施設についても学ぶ機会がたくさんありました。地域医療連携といいながら、何もわからずに退院する患者さんを見送ってきたということを痛感しました。今回の経験を通して在宅で診ることの良さ、難しさを肌で感じました。患者さんの背景をみる、とよく言われていることですが、家庭環境などを実際見ることでなぜ患者さんの「病気」だけを見てはいけないのか、ということを実感として得ることができました。介護保険、地域医療連携という言葉だけで終わっていたものの実態をここにきてやっと目にした気がします。これはこれから医療を続けていくうえで、貴重な経験になったと思います。地域医療に携わっている方々のそれぞれの立場での意見、考え方をすることはとても有意義なことで、また患者さんとの接し方も大変勉強になりました。医療を提供する場、人に求められることについて考え直すきっかけになりました。

1か月終わってみると、地域研修として新城市民病院に来られたことは、最高にラッキーだったと思います。迷惑をおかけした方々には大目に見ていただけると嬉しいです。お世話になったすべてのスタッフの方々に心から感謝しています。おまけしてくれた食堂の方々にも！

いろいろ話して仲良くしてくださった新城市民の皆様も、本当にありがとうございました。お元気で！